

意気



やっさもっさ

誇創力

2006年5月25日

Vol.335



ワークショップ風景

# 市民の思いがカタチに



完成記念式典



ユニークな

個性的な

魅力あふれる

# 4/29(土) 三原運動公園ついにオープン!!



土俵



すべり台



木造トイレ



三原への愛着、思い入れは、三原の住民であれば多かれ少なかれ、誰にでもあると思います。また、三原のまちづくりへのこだわりや工夫アイデアもあるはず。その思いを少しでもかたちにできたらとの考えから、3年前、2003年度協働のまちづくり実践委員会が市民と行政と

一緒になって創った公園がついに完成しました。この公園は多目的広場という制限はあったものの、当初計画になかった木造のトイレや、距離が地面に記してある遊歩道、市民花壇、季節が楽しめる植樹、土俵など、とてもユニークで斬新な魅力あふれるものになりました。



2面につづく

## みたがきいたが

◆春の心地よい天気の下、青い芝生の上で家族揃って昼食…。つい笑顔になる休日の風景を、先日拡張部分が完成した三原市運動公園で見た。この公園は、協働のまちづくりを提唱する当青年会議所が「市民の意見を取り入れた公園を創ろう」と、住民と行政に呼び掛けて会議を重ね、計画が修正されて実現し

た公共施設である。◆「おもつが代えられるトイレがあるといいね」そんな声が飛び交う中、公園を形成する様々なパーツが自分たちの声で変化してゆくことに、参加者は楽しみながら取り組んだ。同様の公園づくりを経験している呉の方々も応援に駆けつけていただき、経験を踏まえた官民両者のアドバイスもあって、素晴らしい公園計画が出来上がった。その反面、会議の参加対象者の選定や進

め方、費用対効果の検討など様々な課題も残したが、この経験は今後のまちづくりに活かしたいものである。◆私たちが生活する地域は、ここで生活する私たちが創る時代になろうとしている。財源と権限を合わせて改革し、国と地方の関係も変化するのかもしれない。今、協働という考え方がキーワードだといっても過言ではないだろう。活気のあるまちに必要なものは整備された環境、例えば、

空港や道路に大型商業店舗や企業誘致などではなく、情熱や夢を持って行動する人である。◆私たち一人ひとりが考え、意欲を持って行動してゆけば、明るく楽しいまちにすることは可能である。ボランティアやNPO団体などの増加という社会背景も好材料といえる。まちづくりは意外と容易なことなのかもしれない。少なくとも莫大なお金は必要ないだろう。